

インド社会におけるカーストの現状

広瀬崇子（法学部教授）

インドにカースト制度という社会制度あることはよく知られている。一般にカースト制度は身分差別、上位カーストによる下位カーストの抑圧といった負のイメージが広くもたれている。カースト制度は 2000 年におよぶ長い歴史を持つ社会制度である。近代化が進む社会でもそれがなくなったわけではない。

このカースト制度はそもそもいつ、どのような目的を持って作られ、インドの歴史の中でどのような機能を果たしてきたのか。そして、それは現代社会ではどのように作用しているのか。インドの人々はこの制度を歴史の負の遺産として葬り去ろうとしているのか。果たしてカースト制度は上位カーストに有利にできているだけで、下位カーストの人間はそこから何の利益も得ないのか。本講義ではこういった問題を考えてみたい。

結論を先取りして述べると、社会制度としてのカースト制度は上下関係によって特徴づけられ、現代でも下位カーストの人間は社会生活で、カーストゆえに差別を受けることがある。日常生活でも食事の際にカーストを問題視する人間は依然として多い。何よりカーストは婚姻に際して重要な決定要因となる。しかし他方で政治の世界ではむしろ下剋上現象がみられる。実際、インドはいわゆる「不可触民」出身の大統領も輩出しているのである。ここでは、その内実をさまざまな方面の実例をあげながら説明を行い、複雑なインド社会の実態の一側面を紹介したい。